

平成29年度 教育事業（地域力向上事業）
ふれあいワークキャンプ（8年目）

1 事業概要

不登校やひきこもりがちな若者が「働くこと」をテーマに2泊3日の共同（協働）生活に取り組んだ。愛媛県南予地方の特産品である「みかん」に関する仕事を柱に、自然豊かな果樹園でみかんの摘み取りや選果、袋がけなどの農業体験を行ったり、地元の道の駅で職場体験を行ったりして、自分なりの職業観を育み、勤労に対する心情を高めることができた。



2 事業の目的（ねらい）

柑橘の摘み取り作業等を体験することで、働くことの意義を体感する。また、参加者や農家、地域の方々との交流や共同（協働）生活を通して、たくましい生き方や心豊かな生き方を感じ、自立への力を育てる。

3 企画・運営のポイント

不登校及び引きこもりがちな児童生徒を対象に、発達段階に応じた様々な体験活動を実施することで、立ち直りの支援や社会性や就労意欲の向上を図ることを目指した。また、以前実施していた社会見学は、社会との関わりや体験を重視して今回は職場体験とし、引き受け先を探した。愛媛県南予地方の特産品である「みかん」に関する農業体験と、地元の道の駅での職場体験を行う構成とし、県内の適応指導教室及び中学校に参加を呼びかけて「ふれあいワークキャンプ」を企画した。

4 期待される効果

国立大洲青少年交流の家では、20年目を迎えた適応指導教室「おおずふれあいスクール」を併設している。そこで長年にわたり積み重ねてきた自然体験や生活体験、就労体験等を積ませることで自主性や社会性が育まれ、心身共に健康な生活を送るためのきっかけづくりができるのではないかと考える。また、2泊3日の活動では、調理実習やクラフト体験、レクリエーションを通して参加者同士の関わりが深まり、他人を思いやる気持ちや自尊感情を高めることも期待できる。

5 主 催 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立大洲青少年交流の家

6 共 催 大洲市教育委員会

7 後 援 愛媛県教育委員会

8 協 力 大洲市出海公民館

9 期 日 平成29年11月14日（火）～16日（木）

10 場 所 大洲市長浜町出海「永沼農園」 大洲市出海公民館
内子フレッシュパークからり 国立大洲青少年交流の家

11 対 象 不登校及びひきこもりがちな中学生・高校生・青少年

12 参加人数 16名（募集人数10名程度）

13 参加費 3,210円

14 講 師 永沼農園 代表 永沼 寛 氏、河井 昭昌 氏
内子フレッシュパークからり 代表取締役社長 土居 好弘 氏

15 日 程

時間	14日（火）	15日（水）	16日（木）
6：00		起床・朝食準備	起床
7：00		朝のつどい・食事	朝のつどい・食事
8：00		片付け・準備・移動	退所準備
9：00	受付	デコポン袋掛け体験 （永沼農園） 講師：永沼氏、河井氏	職場体験 内子フレッシュパークからり 講師：土居氏
10：00	はじまりのつどい		
11：00	移動		
12：00	昼食	昼食	終わりのつどい・解散
13：00	みかん選果体験	みかん摘み体験	
14：00	（出海公民館）	（永沼農園）	
15：00	講師：永沼氏、河井氏	講師：永沼氏、河井氏	
16：00	移動	移動	
17：00	夕べのつどい	夕べのつどい	
18：00	夕食作り（カレー）	夕食	
19：00	食事・片付け	みかんツリーオーナメント作り	
20：00	ふりかえり・自由時間	ふりかえり	
21：00	入浴・就寝準備	入浴・就寝準備	
22：00	就寝	就寝	

16 活動内容

【1日目】

「はじまりのつどい」（10:00～11:00）

国立大洲青少年交流の家において、交流の家所長のあいさつ、スタッフ紹介を行った。また、昨年度の取組をスライドで紹介した後、参加者がしおりの最終ページに自分のめあてを記入することで、3日間の活動をイメージしたり、目標を確認したりする時間とした。最後に、緊張をほぐす時間、お互いを知る時間として、自己紹介を交えたグループワークを行った。



「みかん選果体験」(13:00～15:00)

講師：永沼 寛 氏、河井 昭昌 氏

大洲市長浜町出海の出海公民館に移動し、講師の永沼氏、河井氏からみかんの選果作業や糖度測定の方法について教わった。選果作業では、参加者がコンテナに詰められたみかんを、専用のゲージを用いて2 Lから2 Sのサイズに仕分けていった。作業は順調で、大量に準備されていたみかんを、予定よりも早く選果することができた。糖度測定では、測定器の使い方を教わり、一番甘いと思うみかんを選んで糖度比べを行った。一番糖度の高いみかんを選んだ参加者には、講師の2人からプレゼントが贈られた。講師の2人は、昨年度も参加している参加者を覚えており、会話も弾んで大変楽しい実習となった。



「夕食作り」(17:30～19:00)

交流の家に戻り、参加者の共同生活の時間となった。夕食となるカレー作りでは、2班に分かれて調理を行った。施設からの参加者が多く、調理については普段の生活で経験しており、役割分担も自然にできていた。手際よくカレーが完成し、全員でおいしくいただいた。



「ふりかえり」(19:00～20:00)

ふりかえりでは、全員が1人ずつ感想を伝え合った。「協力できた。」「楽しかった。」「明日も頑張りたい。」等、前向きな内容が多く参加者の意欲が伝わってきた。人前での発表が苦手な参加者も、何か一言伝えようと頑張っていた。

【2日目】

「デコボン袋掛け体験」(9:30～12:00)

講師：永沼 寛 氏、河井 昭昌 氏

2日目も大洲市長浜町出海に移動し、永沼農園でデコボンの袋掛けを体験した。鳥から果実を守るために袋状の布を被せる作業であるが、デコボンが高い所や低い所にも数多くなっているため、1本の木を仕上げるだけでもとても時間がかかった。また、単純作業で大変であったが、参加者が集中して取り組むことで、時間内には作業を終えることができた。



「みかん摘み体験」(13:00～16:00)

講師：永沼 寛 氏、河井 昭昌 氏

永沼農園の皆さん

午後からは、みかんの収穫作業を行った。はさみの使い方を教わると、参加者は黙々と作業に取り組んでいた。昨年度もこの事業に参加している参加者が、



経験を生かし、積極的に数多くのみかんを収穫していたのが印象的であった。当日の記録には、「久々に農園の方に会えて、覚えていてもらったことがすごく嬉しかった。」と記されていた。参加者同士だけでなく、忙しい作業の合間に農園の方との交流もできたことで、仕事の充実感を味わうなど貴重な体験をすることができた。



「みかんオーナメント作り」(18:30~19:30)

交流の家では、冬季、玄関ホールにみかんツリーを展示している。ツリーに飾るみかんのオーナメント作りに取り組むことで、参加者同士の交流を図った。みかんに思い思いの絵や言葉をかき、中身を取ったみかんの皮を貼り合わせていく作業であるが、全員で30個程のオーナメントを作ることができた。



「ふりかえり」(19:30~20:00)

1日目と同様に、全員が1人ずつ感想を伝え合った。2日目は、「大変だったが昨年より楽しく感じた。」「大変だったが一生懸命できた。」等、大変な仕事の中に充実感を感じていることが伝わる感想があった。1日目に発表できなかった参加者が、2日目は発表することができ、成長を感じる場面もあった。

【3日目】

「職場体験」(9:00~11:00)

講師：土居 好弘 氏

最終日は、内子町の道の駅「からり」で、窓ガラス拭きや清掃、樹木の植え込みなどの業務を体験した。参加者は職員の方々の仕事に対する熱意に触れ、「仕事は楽しいことがあるからもっと頑張れると思う。」、「仕事の大変さ、やりとげたときの達成感、楽しさを知ることができた。」などの感想を述べ、自分なりの職業観をもつことができていた。



16 参加者の声

参加者の事後アンケート結果を以下に示す。

* 満足：73.3%

* やや満足：26.7%

* やや不満：0.0%

* 不満：0.0%

- みかん摘みなどの人（講師）が、とても優しくかったのでよかった。
- 一個一個手で大切にみかんをとらなければいけないので、みかんを育てるのは大変なことだと思った。
- いろんな人たちと一緒に活動できて楽しかった。来年もワークキャンプがあったら参加したい。
- 最初はあまり他の人たちと話せなかったけど、2日目になるといろんな話ができるようになったし、仲良くなれたのでよかった。
- 楽しんでいろいろな経験ができた。協力して取り組めたのでよかった。
- 仕事は楽しいことがあるからもっと頑張れると思うので、自分が職業に就いたときに頑張りたい。

- 3日間、しんどかったけど楽しかった。
- 仕事の大変さやいろいろな事が、ワークキャンプから学べた。目標も達成できたのでよかった。
- 初めてのことがたくさんで不安だったけど、頑張って楽しくできたのでよかった。
- 大変な作業で疲れたけど、ちゃんと仕事ができよかった。
- 他の学校の人たちともたくさんしゃべれて嬉しかった。

【施設職員より】

- 子どもたちの成長が素晴らしく、ありがたい事業であると思った。協力先の迷惑にならないように、しっかりと働かせたり、きちんとした態度をとらせたりできるよう、事前にもう少し指導しておきたい。
- 夕食までの時間に、スポーツで交流する時間などあればよいのではないかと思った。
- 子どもたちが日頃できない体験ができてよかった。
- 時期的には適切な内容ではあるが、子どもの主体性を重んじていただいてありがたかった。もう少し個々の事業をてきぱきとして、子どもにゆとりを作ってほしい。

17 事業の成果

今年度は県内の不登校の小・中学生にも参加を呼びかけ、4か所の施設と中学校から計16名の児童・生徒が参加した。当初想定していた募集人数10名を上回ったのは、日帰り参加も可能としたことで、参加者の心理的負担を減らすことができたためと考えられる。

活動を身近な「みかん」に関わる農業体験としたことや、以前の社会見学を職場体験として体験活動を重視したことで、参加者が仕事の大変さや大切さを肌身で感じることができた。また、仕事の充実感、達成感を味わっていることが、参加者の感想からも伺うことができた。将来の仕事に対する展望をもつことで、明るく前向きに生活していくきっかけにしてほしいと思う。

3日間のワークキャンプでは、みかん摘み、職場体験、共同生活など、普段の生活では体験できないものが多く、毎日の生活が単調になりやすい不登校児童生徒にとっては、自分自身を見つめ直すよい機会となった。今後も、地域の素材や交流の家のプログラム・施設を活かしたワークキャンプを開催していきたい。

18 事業の課題

事業前日の雨で、初日は予定していたみかん摘みを選果作業とした。農業体験の講師の方が臨機応変に対応していただいたことで日程を大きく変更することはなかったが、雨天時は交流の家での活動とするなど内容を検討しておく必要があった。また、作業がメインとなり活動が単調となってしまうため、今後は参加者の交流の時間を作るなど、ゆとりをもたせた日程にしていきたいと思う。

職場体験については、人数の多さから引き受け先がなかなか見つからなかった。また、食品関係の企業については、衛生面の配慮から職場体験を行っていないとする回答が多かった。次年度以降については、参加者にとって必要な活動を再検討し、プログラムを構成していきたいと考えている。

(担当：企画指導専門職 渡邊 勝也)